

2025年6月22日主日礼拝説教要約
わたしは世に勝ちました

(ヨハネ16・29～33)

一、「世」について

16章33節に「世」ということばが2回出でます。世とは何なのでしょうか。新約聖書で使われている「世」(コスマス)には、秩序があつて整然としている世界、という意味があります。そうであるなり、創世記1章1節の「はじめに神が天と地を創造された」及び1章31節の「神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かつた。夕があり、朝があった。」という世界を指していると受け取ることができます。

世界は良いものとして造られました。しかし私たちが住んでいる世界には「悪」があるのも事実です。すなわち神の御心から逸れた状況、さらに誰が考えても甚だよろしくない「悪」があります。なぜでしょうか。聖書は語ります。人の罪のゆえであると。そういうわけで「世」は、元々は良いものであったのに、人の罪によって問題を抱えてしまつたことを、神の啓示の書である聖書から知ります。

二、「世」をどう受け止めるか

では、神が造られた世界であり、人の罪によって本来のあるべき姿を失つて

しまつた「世」を、どのように受け止めたら良いでしょうか。聖書に耳を傾けてまいります。そつしますと「世」は、神の愛の対象であることが分かります。ヨハネの福音書3章16節です。「神は、実際に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」と。

もつともこの場合の「世」は、世にいる人々、すなわち私共人間を指しています。人は、どんなに神から離れていても、神から愛されていることを知ります。「世を愛された」と語られているからです。その意味は、神が世的なものを愛しておられるということではあります。ヨハネの手紙第一2章15節にあります。「あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。」と。「世」は、神不在の世界観であり、創造主を認めない世界観です。「この世界観こそは、昔から今日に至るまで、日本社会に浸透している世界観です。欧米の世界観は、意識されていようがいまいが、ギリシア哲学とローマ帝国時代のキリスト教文化が根底にあります。したがいまして、文化の中にキリスト教が溶け込んでいますから、人々がキリスト教を退けるようになると、倫理道徳観も崩れてまいります。ところが日本文化は、キリストによって現された愛に敵対している

ト教がなくとも、それなりにしつかりとした道徳観を持っています。

この、神不在の世界観が「この世」です。日本国に立派な人は、まんといま

すが、神不在の世界観で生きていますので、私たちから見るなら「ペッタンコな世界」「次元の世界」に生きています

ように映ってしまいます。そういう神不在の日本社会の中に、すなわち日本

国というこの世で生きている私共信仰者は、聖靈なる神の働きに浸されてい

ないと、どんどん力を吸い取られて行

きます。そこで、16章33節後半を見て

いただきたいです。「世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」と。

主イエス・キリストを信じる者は、神不

在の世界観の中でも、勝つことができます。私共は、日本国という神不在の世

界観の中で生きています。そのような日本国文化と、不必要的戦いはしないほうが良いですが、必要な戦いはしなければなりません。

主イエス・キリストを信じる者は、神不

在の世界観の中でも、勝つことができます。私共は、日本国という神不在の世

界観の中で生きています。そのような日本国文化と、不必要的戦いはしない

ほうが良いですが、必要な戦いはしなければなりません。

三、わたしは世に勝ちました

ではどのような時に、悪魔といふ、この世を支配する勢力と戦つのでしょうか。それは、ある人、ある組織、ある地域、ある国家を取り巻いている、あるいは浸透している状況が、明らかに「創造主に敵対している」、あるいは「キリストによって現された愛に敵対している」と訳出しています。

イエスさまにお従いして行けば、私は

と考えられる場合です。この戦いは、神からの超自然的な助けがなければできません。特に、一個人よりも一組織、一組織よりも一地域、一地域よりも一国家のほうがむずかしいことは、言うまでもありません。エペソ書が語っているではありませんか。「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上帝にいるもうもうの惡靈に対するものであります。」(6・12)と。ふだんの生活では、なるべく隣人と争わないほうが良いです。意見が異なっても、平和を保つことが必要です。ですが、心の中ではこの世に立ち向かう、すなわち惡魔に立ち向かう必要があります。主は、おっしゃっています。「世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました」と。主イエス・キリストは世に勝たれました。すなわち、神不在の価値観であるこの世に勝たれました。また惡魔が支配するこの世に勝たれました。しかも、「勝ちました」の元のテキストは、完了形になつています。そこで「すでに世に勝ちました」という訳になっています。さらに「勝つ」は、時間を超えて完了していることばなので、口語訳、新井同訳、聖書協会共訳は、「わたしはすでに世に勝つて」いる」と訳出しています。